



前略、手前の夜はわざと東京駅迄有難う。同窓の皆  
 様と交情に唯も感涙するばかりです。手三日の朝無事には京都  
 には着たよ。右に庄君の所へ行く。そと書架の用事を済まして中付りましては  
 東大の宿舎は庄君の致達が神守の友と頼んだと云うので多分合意の  
 船にのりさうとする。昨日は船会社に行つて色々話を休んでおいた。行つたら  
 船の光と二枚ありまして下町の船でうらぶ。右に大体一緒にすると思ひま  
 す。それで庄君の所へ行つて居ると急な京都に未だもらふことにはしな  
 ければ大分切迫してぬからまことに急を急をの荷物の処置のうら  
 さいから急ぐと来たよ。惣老の老いどうも駄目です。当分の用事はこ  
 受付けました。二回程おなれども受け付けて下りなかつてくれ。惣君は計  
 とは甚だ申渡す。右に庄君には庄君からスグマの電報を返却した。こ  
 思ふ中よりまだ惣君にはお覺悟ならざる悪からう。さして下れ、西宮  
 君吳香斎君ともあつしくお送りのお送りがかつた。お返し  
 後れです。さういふ日は急がまを。 さやうなら。

